

# 令和2年度美術館評価調書

(その1)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	9.2%	14.1%	153.3%	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中止となったエジプト展、札幌国際芸術祭の代替として、それぞれコレクションによる「山川草木」展、「日本の美」展を開催した。その結果、コレクション展の開催は当初予定の全3回から5回に増え、425点という多くのコレクションを展示することができた。</li> <li>・他の道立美術館における多くの当館コレクションの展示や本州の美術館でのガラス工芸展など、他の美術館の企画に作品を貸し出した。</li> </ul>
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年ぶりに美術品取得基金を活用し、岩橋英遠の重要作品を購入することができた。また横山大観の初期重要作の寄贈を受けることができた。</li> <li>・このほか蠣崎波響、棟方志功、難波田龍起などの作品寄贈があり、収集方針のうち「北海道の美術」と「日本近代の美術」のコレクションがいっそう充実した。</li> </ul>
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う計画的に所蔵作品の修復を行う				c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫内や荷解室等の害虫調査を常時行い、庫内への害虫侵入を徹底的に阻止する方策を整えるなど、適切な環境の保持に努めた。</li> <li>・所蔵作品の絵画2点、野外彫刻4点の修復を完了し、継続して次年度の修復計画を立案している。</li> <li>・展示室や収蔵庫の老朽化による施設設備等の不調が生じたが、それらに迅速に対応したほか、長期の使用に耐えうる修繕方法等を検討した。</li> </ul>

## 【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	<p>コレクションの活用と充実に必要な成果をあげることができた。次年度もコレクション展を4期実施するとともに、作品の材質・技法に応じた適切な展示期間を設定し、活用と保存の両立に努めていく。</p> <p>施設設備の老朽化への対応に関し、継続して検討を行い、今年度の調査に基づき、具体的な方策を講じていく。</p>

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

# 令和2年度美術館評価調書

(その2)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	39,388人	19,843人	50.4%	d	・人間、自然、食文化、日本の伝統美、北海道の版画家、日本のガラスなど、さまざまなテーマによって当館コレクションを幅広く紹介した。コロナ禍の影響により観覧者数は半減したが、満足度は高かった。「日本の美」展における浮世絵については、親しみやすい作品解説が大変好評であった。今後も企画性の高い、観覧者の興味をひく展覧会を行っていく。
	常設展示観覧者の満足度	88.8%	90.0%	101.4%		
	常設展示のリピート率	72.5%	71.8%	99.0%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	314,487人	59,192人	18.8%	d	・キスリング展の会期短縮、エジプト展及び札幌国際芸術祭の中止により、観覧者数については大幅に減少した。 ・「神田日勝展」及び「諸星大二郎」展は、当館における調査研究の蓄積が、企画の実現や内容の充実に活かされた展覧会であり、北海道内外の美術館等と連携して、札幌を超え広く全国に作家の魅力伝えることができた。
	特別展示観覧者の満足度	91.2%	93.3%	102.3%		
	特別展示のリピート率	77.2%	73.9%	95.7%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	・近美コレクションの認知度を上げるため、北1条通に大型フェンス看板を設置したほか、STVの協力によりTVCMを行った。今後も積極的な広報に努める。 ・「諸星大二郎」展では会場でキャラクター人気投票、「猫みれ」展では来場者の飼育写真掲示など、展覧会参加の楽しみを喚起し興味関心を高める取り組みを展開した。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・感染症対策として観覧者の間隔をとるための出品点数の抑制、通路幅の拡張、触れて鑑賞する展示の中止等、展示に様々な制限が加わったが、そうしたなかで「日本の美」展では、日本の伝統的な美意識を幅広い視点から紹介し、また「諸星大二郎」展では、作家の創作世界の広さと深さを実感できる工夫をした。いずれも鑑賞者からは好評であり、展示のねらいは効果的に表現できた。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	93.3%	95.7%	102.6%	b	・えりも町(10月4日～14日)で事前の調査と打合せをもとに感染対策を行って移動美術館を実施した。遠方のため当館訪問が困難な地域の人々にコレクションを鑑賞していただく絶好の機会となり、幅広い層の来場者を集めた。
	その他の館外展示の状況					

## 【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	一部の特別展の中止は生じたが、展示室A・Bをフレキシブルに活用しながら全館で近美コレクションを実施するなどの工夫に取り組み、緊急事態宣言による休館期間以外は鑑賞機会の提供を継続できた。 また、北海道の美術、エコール・ド・パリ、ガラスという当館の収集活動や調査研究活動の特色を活かしたものはもちろん、現代の漫画家の紹介を行うなど、多彩なテーマやジャンルの展示を実現することができた。

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

# 令和2年度美術館評価調書

(その3)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	550回	548回	99.6%	d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策として、キスリング展の普及事業と子ども鑑賞ツアーをすべて中止にしたが、子ども向け事業である夏休みのガイドツアーと秋のワークショップは感染対策を踏まえた内容とするともに、1回あたりの募集人数を少なくして回数を増やし実施した。</li> <li>・「満足度」は、感染症対策の一環として聴き取りによるアンケートを中止したため、データ収集ができなかった。</li> </ul>
	教育普及プログラムの参加者数	7,000人	3,919人	56.0%		
	教育普及プログラムの満足度	99.3% (聴取せず)	—	—		
	教育普及事業の状況	/	/	/		
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	10,954人	2,468人	22.5%	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート・レファレンス・サービス(ARS)、及び図書コーナーは年度当初から7月まで休止し、7月21日から再開したが、感染症対策で席数を半減させビデオ視聴を中止とした。</li> <li>・休館中は、自宅で作品鑑賞体験ができるよう、展覧会内容を動画で紹介する「北海道リモート・ミュージアム」を、5月21日からYouTube上で配信した。これまで7本の動画を随時投稿し、再生回数は5,922回(R3.2.28現在)となった。</li> <li>・美術情報の提供と展覧会への興味を喚起するため、SNS上で展示作品の解説を行った。</li> </ul>
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	72.6%	63.6%	87.6%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持	/	/	/		
	HPアクセス件数	392,701件	288,352件	73.4%		
	メールマガジン等発行回数	5回	9回	180.0%		
	ソーシャルメディアの投稿数	135回	235回	174.1%		
	情報発信の状況	/	/	/		

## 【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>解説活動やワークショップを一部中止としたが、ウェブ上の発信に力を入れた。</p> <p>展示室内での学芸員によるミュージアム・トークやボランティア解説部によるギャラリー・ツアー、講堂での講演・講座・解説の実施に際しては、ポータブルマイクの使用、参加人数の制限と間隔の確保等の対策により、感染症流行下においても実施する基準と体制をつくることができた。いかなる状況下においても、創意工夫を行い、今後も積極的に学習の場と美術情報の提供に努めていきたい。</p>

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

# 令和2年度美術館評価調書

(その4)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告	/	/	/	C	<p>・R2年度の研究紀要は2本の論考を掲載して発刊、「キスリング」展、「神田日勝」展、「諸星大二郎」展の展覧会図録にテキスト、解説を掲載して発行した。このほか各種解説、新聞・雑誌への寄稿のほか、館内外における講座・解説、トーク等での発表や専門的な照会への対応を行った。</p> <p>・美術館連絡協議会加盟館との協同企画による「諸星大二郎」展は他館学芸員との協同研究の成果であり、同会の最高賞「美連協大賞」を受賞した。</p> <p>・このほかにも、研究の蓄積と知見を活かし、外部機関の委員や非常勤講師、講座講師などの社会貢献活動を諸機関からの依頼に応じて行った。</p>
	二次資料の状況	/	/	/		

## 【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	<p>コロナ禍のなかで館外での調査は大きく制限されたが、中止した特別展に代わり、近美コレクションをこれまでの研究の蓄積を活かし短期間で企画したり、近年のIPM(総合的有害生物管理)に関する情報を収集して収蔵環境の改善に取り組むなど、多分野にわたる調査研究を推進し、その成果を諸活動に活かすことができた。</p>

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

# 令和2年度美術館評価調書

(その5)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	2,134人	2,082人	97.6%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動は、臨時休館及びボランティア部の自主的な感染症対策のため7部とも7月下旬まで休止となった。その間にも、館からは、活動再開に向けた意見交換や指導助言を行った。再開後はほぼ通常並の活動を継続することができた。</li> <li>・大学との連携は、大学がほぼすべてリモート授業となったため実施できなかった。</li> </ul>
	ボランティアが活動しやすい場の提供	/	/	/		
	地域と連携した取組の状況	/	/	/		
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	2校	100.0%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張アート教室は、実施希望のあった3校と感染症対策の打合せを行って、とどこおりなく実施できた。</li> <li>・指導者研修は募集中止となり、実施していない。</li> <li>・博物館実習では、のべ7校33名を受け入れた。またインターンシップ研修は、2名の実習生の応募があり、翻訳やミュージアム・トーク等を行った。</li> <li>・感染症等の影響により修学旅行等の観覧は減少したが、学校との連携を強化するため、団体観覧、館内の体験学習、鑑賞学習支援ツールなどの案内を掲載したチラシを作成し、全道立学校と石狩管内の全小・中学校に配布した。</li> </ul>
	出張アート教室の延べ参加者数	214人	122人	57.0%		
	指導者研修の延べ参加者数	5人	(実施せず)	—		
	学校教育活動への対応数	30件	12人	40.0%		
	参加者・利用者満足度	/	/	/		

## 【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	美術館協会及び学校との連携は、感染症流行下においても通常以上に綿密な連絡調整を図ることにより、互いの了解のもとで、事業の質を担保した活動を実現できた。 今後も継続して積極的な連携を図っていきたい。

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

# 令和2年度美術館評価調書

(その6)

北海道立近代美術館

## 【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	77.2%	58.0%	75.1%	d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レストランは、感染症対策による休館や閉店の影響により、新規に出店したカフェを含めても開店期間は約2か月間であった。</li> <li>・今後は、来館者アンケート結果等を基に、カフェ事業者やミュージアムショップを運営しているボランティア団体と協議しながら、連携してサービスの向上に努めたい。</li> </ul>
	ミュージアムショップ利用者満足度	73.9%	61.3%	82.9%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	#REF!	80.8%	#REF!	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員とボランティアが展覧会ごとに学芸員のガイダンスを受け、理解を深めた上で来館者への対応にあっている。</li> <li>・外国人対応として、英文による作家解説を増やすなど誰もが利用しやすい環境となるよう、ホスピタリティの向上に努めている。</li> <li>・来館者が快適にインターネットを利用できるよう館内のWi-Fi機器を更新した。</li> </ul>
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	81.0%	79.1%	97.7%	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の老朽化が課題ではあるが、展覧会の実施に支障がないよう、随時点検を行うなどして補修が必要な箇所や修繕が必要な設備等を把握し、すみやかに工事等を行うよう努めた。</li> <li>・来館者が快適に施設を使用できるよう、老朽化や感染症対策への対応として、トイレのドア、洗面台のレバー、トイレトーパーホルダー、傘立て、階段の絨毯等の交換を行った。</li> </ul>
	施設安全性保持のための必要な措置					

## 【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	感染症対策として、道の運用方針に基づき、入館時の検温・手指消毒等を行った。 また、展示室内の入場制限を設定したが、制限が必要な人数には至らなかった。 今後も引き続き、感染症対策を行うほか、カフェ事業者、ボランティア団体等と情報共有し、連携を密にしながら来館者サービスやホスピタリティの向上に努めるとともに、計画的に環境整備を行っていききたい。

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E